

令和3年度

教育行政執行方針(要旨)

1 はじめに

昨年は、新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大により、「先行き不透明な時代」となりました。

教育の現場に目を向けても、各学校では、日常的な感染の予防や対応といった「新しい生活様式」に基づいた取り組みを行いながら、子どもたちの安全・安心を確保しつつ、この「先行き不透明な時代」を生き抜くための資質・能力をどのように身に付けさせるか、対応が求められています。

一方で、こうしたコロナ禍の状況において、オンラインと対面による授業を組み合わせたハイブリッド型の授業が日本中で展開されるなど、与えられた環境の下で新たな価値を見出し、今できる最大限のことを生み出す力を発揮してきました。

学校教育では、全町一斉に「小中一貫教育」が進められて3年が経過し児童生徒、学校、地域の実情等を踏まえた取り組み内容の質を高めることができましたが、一

方で学力や体力面など、さまざまな課題が明らかになりました。今年度は、その一つ一つの課題を確実に解決すべく、マネジメントサイクルを機能させ、きめ細かな指導の充実を図ることができるよう、取り組んでいく考えです。また、社会教育では、生涯学習に対する意識の向上を図るとともに、協働意識をもって町づくりに参画できる教育環境を整備する必要がありますと考えています。

白糠高等学校の魅力化については、公営塾を中心としたさまざまな取り組みにより一定の成果が現れはじめています。今後は地域教育コーディネーターを中心に、学校や教育振興協議会、外部アドバ

イザーとの連携を一層強化します。『ふるさと教育』を継続・充実することで、これからの時代に必要な資質・能力を着実に身に付け、どんな変化にも柔軟に対応できる人材の育成と、同時に白糠という恵まれた環境で学ぶことに喜びを感じつつ、主体的に行動できる人材の育成を目指します。

2 学校教育の充実

「子どもたち一人一人が未来を拓き、活躍できる人材の育成」に努めるとともに、本町らしい子育て支援や小中一貫教育の一層の充実に向け、次の3点の取り組みを推進します。

① 実社会で生きる実践的な力の育成

子どもたちが「自立的で変化する社会に柔軟に対応できる創造性豊かな人」へと成長できるように、次の3点を重点として推進します。一つ目は「基礎学力の定着」です。将来の自己実現および社会参画に必要な知識・技能、思考力等、



白糠高校では、新年度から給食が無料で提供されます。

学びに向かう力の確実な定着を目指し、小中一貫教育の一層の充実を図ります。

具体的には、児童生徒に一人一台の環境を整備した教育用タブレットを積極的に活用し、学習効果の向上を図るとともに、放課後学習サポート事業との連携を深め、家庭学習の習慣化と基礎学力の保障に努めます。

二つ目は「語学力の向上」です。ALIT(外国語指導助手)による外国語指導を充実させ、日常的に使える外国語の習得を図ります。また、海外研修等による外国語を用いたコミュニケーションの場を設定するなど、グローバル化に対